

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|-----------|
| 学校名 | 昭和学院短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人 昭和学院 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---------------|----------|-----------|-----------------------|-------------|----------|----|-------------|------|
| | | | 全学 共通科目 | 学部等 共通科目 | 専門 科目 | 合計 | | |
| 人間生活学科 | キャリア創造専攻 | 夜・通信 | 0 | 2 | 45 | 47 | 7 | — |
| | こども発達専攻 | 夜・通信 | | | 9 | 11 | 7 | — |
| ヘルスケア 栄養学科 | | 夜・通信 | 0 | 0 | 30 | 30 | 7 | — |
| (備考) | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| 昭和学院短期大学ホームページ https://www.showagakuin.ac.jp/outline/zaigakusei/ |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|-----------|
| 学校名 | 昭和学院短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人 昭和学院 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|--|
| 学校法人昭和学院ホームページに公表 https://showa-gkn.ed.jp/public-info/#yakuin-meibo |
|--|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|----------------------------|----------------------|---|
| 非常勤 | 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター所長 | 令和5年2月21日から令和8年2月20日 | 学外理事には監督と助言の両方の役割があり、理事会の議論の活性化、ガバナンスの向上に効果を期待している。 |
| 非常勤 | 無職 | 令和5年2月21日から令和8年2月20日 | |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 昭和学院短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人昭和学院 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年シラバスを作成し、公表している。シラバスには科目名、担当者、開講時期、履修形態、授業形態、単位数、アクティブラーニングの有無、授業のねらい及び身につく能力、学修成果項目(達成目標、成績評価の方法、評価の観点等)、教科書・参考書、課題や制作物等のフィードバック、毎回の授業内容等のスケジュール、準備学習の内容及びその目安時間等を掲載している。</p> <p>12月から1月に教務委員会で次年度のシラバス作成について話し合い、提示内容等の方針を決める。次にシラバス作成方法について全専任教員を対象としたFDを行い、昨年度との変更点や留意点を説明する。</p> <p>教務委員会のシラバス担当(専任教員で構成)が2月上旬にシラバス執筆の依頼を行う。その際、シラバス作成要領およびOffice365の共有ファイルにアップする方法を伝えて、おおむね2月下旬に執筆を完了させる。</p> <p>シラバス担当者が様式等を確認した後に、学長・学科長・専攻長が内容のチェックを行い、修正完成したものを新年度開始の4月1日に公開とする。公開は、本学ホームページの学生向け箇所であるが、学生だけでなく、一般に閲覧できる。</p> | |
| 授業計画書の公表方法 | https://www.showagakuin.ac.jp/outline/zaigakusei/ |
| 2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 | |

| | |
|--|--|
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果の評価は学修成果の到達度と連動している。評価方法は、シラバスに学修成果項目の欄を設け、以下の項目を網羅し、受講学生に明示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> *全学共通の6つの指標のうち、身につけるべき項目（学修成果指標項目） *評価項目の達成目標 *評価手段（学期末試験・平常試験・レポート・受講態度等） *評価比率（全体を100%とした際の評価手段の割合） *評価の観点 <p>授業担当教員は、ルーブリック評価法を取り入れ、受講生ごとに学修成果指標項目を5段階で評価した上で、科目としての評価（S・A・B・C・D・F）を判定する。S・A・B・Cが合格である。また、授業終了後に「授業実施報告書」を作成し、学修成果指標項目の5段階評価のそれぞれの基準を記し、科目としての評価の比率とともに、年度末までに教員ポートフォリオにまとめる。</p> <p>学生の単位認定は、9月と3月の教授会で全学生の修得状況を審議し、認定している。</p> | |
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> | |
| <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPAの制度は「GPA制度に係る実施要項」でその詳細が定められている。(1)学期、(2)年度、(3)累積GPAの算出式があり、算出された数値の小数点第3位以下は四捨五入する。算出式は下記である。</p> $GPA = (「S」の単位数 \times 4 + 「A」の単位数 \times 3 + 「B」の単位数 \times 2 + 「C」の単位数 \times 1 + 「D」または「F」の単位数 \times 0) / (当該学期または年度または累積の総履修登録単位数)$ <p>Web上で公開されており、新入生のガイダンス時にも、説明している。また、学生に対しては、各学期終了時に学科・専攻単位で指導日を設け、累積の成績書を配付するが、その際に、GPA値、学修成果指標項目の評価値も渡し、次の学期への学習意欲につなげている。学科・専攻のGPAの平均値を学生には公表しているため、各学生は自分の成績位置をおよそ把握することができる。</p> <p>GPAは表彰や奨学制度、退学勧告に利用する他、成績の分布状況の把握にも役立っている。</p> | |
| <p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p> | <p>https://www.showagakuin.ac.jp/web/wp-content/uploads/2024/06/GPA.pdf</p> |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> | |

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業・学位の認定については、ディプロマポリシーを公開している。各学科・専攻のディプロマポリシーを下記に示す。

【人間生活学科】

教養科目、基礎科目、専門科目における高いレベルでバランスのとれた能力(知識・理解・技能・表現)と、それを基盤にしてより良い人間生活を目指して諸課題を解決しようとする意欲(思考・判断・関心・意欲・態度)とを自ら育み備えている。

＜キャリア創造専攻＞

1. 自らのキャリアを設計し、時代の変化に即応できる力を備えている (社会人基礎スキル、思考力)
2. 消費者の立場を理解し、多様なビジネスに対応できる知識、技術を身につけている。(専門的知識・技術、コミュニケーション力、実践力、向上心・責任感)

＜こども発達専攻＞

1. 人間に関わる理論を学ぶことで、精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、問題解決へ向けての応用能力を身につけている。(社会人基礎スキル、思考力、コミュニケーション力)
2. こどもたちの個性や可能性を大切に、人格形成にかかわる適切な指導や援助のできる保育力および人の気持ちへの受容・共感・支持の態度を身につけている。(専門的知識・技術、実践力、向上心・責任感)

【ヘルスケア栄養学科】

ヘルスケア栄養学科の卒業認定・学位授与の方針は、「教養科目、専門基礎科目、専門科目において豊かな人間性と健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢(理解・関心・意欲・態度)と人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な知識・技能(知識・技術・判断・思考)を身につける」であり、目指す人材育成のために、講義、演習、実習をバランスよく配置し、その履修を卒業要件としている。

1. 豊かな人間性を養い、健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢を身につけている。(社会人基礎スキル、向上心・責任感)
2. 専門科目の講義や実験・実習・演習を通して、人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な専門的知識・技能を身につけている。(専門的知識・技術、思考力、コミュニケーション力、実践力)

第1学年9月・3月、第2学年9月と単位認定の教授会を行い、その際に、単位修得状況の芳しくない学生については個々に報告され、次の学期での学習活動が検討される。第2学年3月には、累積された単位の認定とともに卒業認定が行われる。

卒業認定の単位(2025年度)については

- ・人間生活学科キャリア創造専攻
教養9単位以上、基礎8単位、専門40単位以上／合計62単位以上
- ・人間生活学科こども発達専攻
教養10単位以上、基礎4単位以上、専門44単位以上／合計66単位以上
- ・ヘルスケア栄養学科
教養8単位以上、専門基礎6単位、専門44単位以上／合計66単位以上と定めている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.showagakuin.ac.jp/outline/history/#diploma>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|-----------|
| 学校名 | 昭和学院短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人 昭和学院 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|--|
| 貸借対照表 | 学校法人昭和学院ホームページに公表 https://showa-gkn.ed.jp/public-info/#yakuin-meibo |
| 収支計算書又は損益計算書 | |
| 財産目録 | |
| 事業報告書 | 各年度決算書のページに財産目録並びに監事による監査報告書も掲載されている。 |
| 監事による監査報告(書) | |

2. 事業計画(任意記載事項)

| | |
|-------------|---------|
| 単年度計画(名称:) | 対象年度:) |
| 公表方法: | |
| 中長期計画(名称:) | 対象年度:) |
| 公表方法: | |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|--|
| 公表方法: 自己点検評価の結果についてHPで公表している。 https://www.showagakuin.ac.jp/outline/third_party_evaluation/ |
|--|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|---|
| 公表方法: https://www.showagakuin.ac.jp/outline/third_party_evaluation/ |
|---|

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 人間生活学科キャリア創造専攻、こども発達専攻 ヘルスケア栄養学科 |
| 教育研究上の目的(公表方法: 昭和学院短期大学ホームページ: https://www.showagakuin.ac.jp/outline/history/) |
| (概要) 人間生活学、ヘルスケア栄養学に関する実際的な専門的な学術技芸を授けるとともに、良き社会人として教養を高め、真に平和を愛好し、人類の文化及び健康福祉の向上に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。 |

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：昭和学院短期大学ホームページ：
<https://www.showagakuin.ac.jp/outline/history/>）

（概要）

ディプロマポリシーとして方針を定めている。

【人間生活学科】

教養科目、基礎科目、専門科目における高いレベルでバランスのとれた能力(知識・理解・技能・表現)と、それを基盤にしてより良い人間生活を目指して諸課題を解決しようとする意欲(思考・判断・関心・意欲・態度)とを自ら育み備えている。

<キャリア創造専攻>

1. 自らのキャリアを設計し、時代の変化に即応できる力を備えている（社会人基礎スキル、思考力）
2. 消費者の立場を理解し、多様なビジネスに対応できる知識、技術を身につけている。（専門的知識・技術、コミュニケーション力、実践力、向上心・責任感）

<こども発達専攻>

1. 人間に関わる理論を学ぶことで、精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、問題解決へ向けての応用能力を身につけている。（社会人基礎スキル、思考力、コミュニケーション力）
2. こどもたちの個性や可能性を大切にして、人格形成にかかわる適切な指導や援助のできる保育力および人の気持ちへの受容・共感・支持の態度を身につけている。（専門的知識・技術、実践力、向上心・責任感）

【ヘルスケア栄養学科】

1. 豊かな人間性を養い、健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢を身につけている。（社会人基礎スキル、向上心・責任感）
2. 専門科目の講義や実験・実習・演習を通して、人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な専門的知識・技能を身につけている。（専門的知識・技術、思考力、コミュニケーション力、実践力）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：昭和学院短期大学ホームページ：
<https://www.showagakuin.ac.jp/outline/history/>）

（概要）

カリキュラムポリシーとして方針を定めている。

【人間生活学科】

人間生活学科の教育課程として、豊かな人間性と幅広い教養を身につけるための「教養科目」、生活者として必要な本学科の基幹となる学問領域としての「基礎科目」、専攻の教育目的を達成するための「専門科目」を配し、より良い生活の実現を目指す総合力を養う。

<キャリア創造専攻>

1. 自己にあった学びを体系的にできるよう配慮し、ビジネスに必要な専門知識を身につけさせる。
2. アクティブラーニングによる学びを取り入れ、社会で求められるコミュニケーション力や問題解決力に加えて、クリエイティブな力を身につけさせる。

<こども発達専攻>

1. 精神の発達、心身の発達、身体の発達に応じた科目をバランスよく配置して、個人の発達とともにその発達を支える社会との関連を学び、人間を総合的に観る能力を身につけさせる。
2. 理論、演習、実習を1年次より有機的に配置して、2年間の学びの中で、実体験を生かして理解を深め、専門職への意識の向上を図る。

【ヘルスケア栄養学科】

1. 「専門基礎科目(必修)」で基礎的学力を養い、「専門科目(必修)」から「専門科目(選択)」へと段階を追った系統的な学習を通じて高度な専門的知識を修得させる。

2. 「実験・実習・演習」に重点を置いた実践的な学びを通して、専門的スキルを身につけさせる。
3. 豊かな人間性を養うための「教養科目」と高度な知識や資格を取得するための「専門科目」を置き、丁寧な個別指導を行い、個々の学生に適した学びを可能にしている。学修成果の評価については、成績と連動しておりルーブリック評価法を取り入れて行う。履修科目の単位認定に当たっては科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：昭和学院短期大学ホームページ：
<https://www.showagakuin.ac.jp/outline/history/>）

（概要）

アドミッションポリシーを定めている。

【人間生活学科】

人間尊重の精神をもち、自らの生活の向上のために前向きに努力できる人、またはその意思のある人

＜キャリア創造専攻＞

1. 自身の将来に向けて目的意識を持ち、キャリアを構築する意思のある人
2. ビジネス・ファッション・ブライダル・フード・観光・エアライン・医療・教育・DXなどの分野に興味・関心のある人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力（英語、数学、国語等）を身につけ、興味のあることに一生懸命に取り組んだことのある人

＜こども発達専攻＞

1. こどもを含めたあらゆる人間関係に意欲を持って、柔軟に対応できる人
2. 人間生活を理解できる保育者となるための基本的資質（素直さ・明るさ・倫理観等）を持ち、弱者に寄り添うことのできる人

高校での学びについて：

高等学校卒業程度の基礎学力（英語、数学、国語等）に加えて、社会生活を営むための基本的能力や自己管理能力を身につけている人

【ヘルスケア栄養学科】

1. 人の健康を食と栄養の面から支えるという目標を持ち、目標に向け努力を惜しまない人
2. 健康増進・医療・福祉に貢献できる、人間性豊かな人

高校での学びについて：

高等学校卒業程度の基礎学力（数学、国語等）を身につけ、食や栄養の分野に関わる学びに興味がある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：昭和学院短期大学ホームページ

①「自己評価・第三者評価」

自己点検・評価報告書

認証評価結果

第三者評価結果

https://www.showagakuin.ac.jp/outline/third_party_evaluation/

②「教育研究上の基礎的な情報」

I. 教育研究上の基礎的な情報

I-3. 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

(4)→学校法人昭和学院・短期大学の組織

<https://www.showagakuin.ac.jp/outline/8010-2/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|--|--------|--|-----|----|----|-----------|-----|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 2人 | — | | | | | 2人 |
| 人間生活学科 | — | 5人 | 5人 | 0人 | 2人 | 1人 | 13人 |
| ヘルスケア栄養学科 | — | 4人 | 1人 | 0人 | 2人 | 3人 | 10人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | | 計 |
| 0人 | | 24人 | | | | | 24人 |
| 各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等) | | 公表方法： https://www.showagakuin.ac.jp/outline/8021-2-1seikatu/ https://www.showagakuin.ac.jp/outline/8021-2-2kodomo/ https://www.showagakuin.ac.jp/outline/8021-2-2healthcare/ | | | | | |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| 令和6年度も学生による授業評価アンケートを実施し、評価結果を分析して教授会で報告して授業改善に生かしている。授業評価の結果に基づき、教育優秀賞の表彰を行っている。具体的なFD活動としては、「教職員向けセキュリティ診断結果報告と講習会」、「電子黒板の使い方」、大学コンソーシアム市川第1回共同FD研修会「数理・データサイエンス・AI教育の取り組み」、大学コンソーシアム市川第2回共同SDオンデマンド研修会「卒業時の平均学生満足度～各大学の状況とその要因～」に参加し、すべての講習会において、教員全員の参加を義務付けている。出張等により欠席した教員からは、録画（録画のないものについては配布資料）を視聴後、作成したレポートを受け取った。 | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|-------|-------------|-------------|-------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| 人間生活学科 | 90人 | 86人 | 95.6% | 180人 | 148人 | 82.2% | 0人 | 0人 |
| ヘルスケア 栄養学科 | 80人 | 39人 | 48.8% | 160人 | 90人 | 56.3% | 0人 | 0人 |
| 合計 | 170人 | 125人 | 73.5% | 340人 | 238人 | 70.0% | 0人 | 0人 |
| (備考) | | | | | | | | |

| b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数 | | | | |
|------------------------|----------------|--------------|-------------------|--------------|
| 学部等名 | 卒業者数・修了者数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 人間生活学科 | 85人 (100%) | 0人 (0%) | 81人 (95.3%) | 4人 (4.7%) |
| ヘルスケア 栄養学科 | 84人 (100%) | 1人 (1.2%) | 81人 (96.4%) | 2人 (2.4%) |
| 合計 | 169人 (100%) | 1人 (0.6%) | 162人 (95.8%) | 6人 (3.6%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |
| (備考) | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項) | | | | | |
|---|-------------|--------------------|----------|----------|----------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業・修了者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| 合計 | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (備考) | | | | | |

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>各学科・専攻のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいて授業科目が開講されており、履修系統図で整理されている。</p> <p>人間生活学科キャリア創造専攻は教養科目 19 科目、基礎科目 4 科目、専門科目 58 科目、教職課程 14 科目が開講されている。</p> <p>人間生活学科こども発達専攻は教養科目 19 科目、基礎科目 4 科目、専門科目 53 科目が開講されている。</p> <p>ヘルスケア栄養学科は教養科目 18 科目、専門基礎科目 3 科目、専門科目 61 科目、教職課程 13 科目開講されている。</p> <p>授業の方法は講義、実験、実習、演習形態がとられアクティブラーニングやICT機器の活用、ディスカッションやプレゼンテーション、ロールプレイ等多様な方法が科目の目的に応じて取り入れられている。</p> <p>個々の科目の授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関する事はシラバスに掲載されている。主な掲載項目は科目名、担当者、開講時期、履修形態、授業形態、単位数、アクティブラーニングの有無、授業のねらい及び身につく能力、学習成果項目(達成目標、成績評価の方法、評価の観点等)、教科書・参考書、課題や制作物等のフィードバック、毎回の授業内容等のスケジュール、準備学習の内容及びその目安時間等である。</p> |
|---|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| (概要) | | | | |
|--|----------|----------------------|----------------------|-----------------------|
| <p>学修成果に係る評価は学修成果の到達度と連動しており、シラバス等で公表した成績評価法でルーブリック評価法を取り入れて行う。授業担当教員は、受講生ごとに学修成果指標項目を5段階で評価した上で、科目としての評価（S・A・B・C・D・F）を判定する。S・A・B・Cが合格である。成績評価に当たってはGPA制度を取り入れている。学生の単位認定は、9月と3月の教授会で全学生の修得状況を審議し、認定している。</p> <p>第1学年9月・3月、第2学年9月で単位認定の教授会を行い、第2学年3月には、累積された単位の認定とともに卒業認定が行われる。</p> <p>卒業認定の単位（2025年度）については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間生活学科キャリア創造専攻 教養9単位以上、基礎8単位、専門40単位以上／合計62単位以上 ・人間生活学科こども発達専攻 教養10単位以上、基礎4単位以上、専門44単位以上／合計66単位以上 ・ヘルスケア栄養学科 教養8単位以上。専門基礎6単位、専門44単位以上／合計66単位以上 <p>と定めている。</p> | | | | |
| 学部名 | 学科名 | 卒業又は修了に必要な となる単位数 | GPA制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
| 人間生活学科 | キャリア創造専攻 | 62単位 | 有・無 | 単位 |
| | こども発達専攻 | 66単位 | 有・無 | 単位 |
| ヘルスケア栄養学科 | | 66単位 | 有・無 | 単位 |
| GPAの活用状況（任意記載事項） | | 公表方法： | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法： | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|---|
| <p>公表方法：公表情報 https://www.showagakuin.ac.jp/outline/8010-2/#no1-3 施設紹介 https://www.showagakuin.ac.jp/outline/facili</p> |
|---|

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考（任意記載事項） |
|-----------|----------------|-------------|---------|----------|-------------|
| 人間生活学科 | 1年 キャリア創造専攻 | 620,000円 | 250,00円 | 471,240円 | その他（預り金を含む） |
| 人間生活学科 | 2年 キャリア創造専攻 | 620,000円 | 円 | 574,160円 | その他（預り金を含む） |
| 人間生活学科 | 1年 こども発達専攻 | 620,000円 | 250,00円 | 472,240円 | その他（預り金を含む） |
| 人間生活学科 | 2年 こども発達専攻 | 620,000円 | 円 | 565,160円 | その他（預り金を含む） |
| ヘルスケア栄養学科 | 1年 | 620,000円 | 250,00円 | 418,240円 | その他（預り金を含む） |
| ヘルスケア栄養学科 | 2年 | 620,000円 | 円 | 506,160円 | その他（預り金を含む） |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|---|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生と教職員との距離が近い本学では、人間生活学科でクラス担任制(1名の担任教員)、ヘルスケア栄養学科で学年担任制(2~3名の担任教員)をとって、学生の相談・指導にあたっている他、ゼミナール担当教員や各学科・専攻及び事務部の教務、学生、キャリア委員等が相互に連携して学生の修学支援を行っている。具体的な例を下記に示す。 ・入学時のフレッシュマンセミナーや学期開始ごとのオリエンテーション ・オフィスアワーの実施 ・学生の経済的支援として、授業料の減免、延納許可、奨学金の実施 ・成績優秀者の表彰(理事長賞、知事賞、協会賞等) ・障害のある学生のための就学支援 |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |
| (概要) 主にキャリア支援センターが中心となって進路選択に係る支援を行っている。 ・就職指導委員会による就職セミナーの実施 ・就職課による求人情報の提供及び学生相談 ・公務員試験対策講座の実施 ・卒業生による講演会(就職活動、就業実態等) ・クラス担任、学年担任、ゼミナール担当教員等による進路の個別相談 |
| c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 |
| (概要) 主に学生生活支援センターが中心となって下記の支援等を行っている。 ・年度初めの健康診断 ・学生相談室を配し、臨床心理士がメンタルケアを実施 ・医務室を2室、AEDを2台配置し学生の体調不良に備える。 |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

| |
|---|
| 公表方法：毎年、自己点検報告書を作成し、HPで公表している。 https://www.showagakuin.ac.jp/outline/third_party_evaluation/ |
|---|

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|-------------------|---------------|
| 学校コード (13桁) | F212310102626 |
| 学校名 (〇〇大学 等) | 昭和学院短期大学 |
| 設置者名 (学校法人〇〇学園 等) | 学校法人 昭和学院 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--|------------|---------|---------|---------|
| 支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。 | | 31人（ ）人 | 27人（ ）人 | 32人（ ）人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 19人 | 13人 | |
| | (うち多子世帯) | ()人 | ()人 | |
| | 第Ⅱ区分 | - | - | |
| | (うち多子世帯) | ()人 | ()人 | |
| | 第Ⅲ区分 | - | - | |
| | (うち多子世帯) | ()人 | ()人 | |
| | 第Ⅳ区分(理工農) | 0人 | 0人 | |
| | 第Ⅳ区分(多子世帯) | 0人 | - | |
| 区分外(多子世帯) | 0人 | 0人 | | |
| 家計急変による 支援対象者(年間) | | | | 0人()人 |
| 合計(年間) | | | | 32人()人 |
| (備考) | | | | |

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | |
|---|--|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 人 | 0人 | 0人 |
| 修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当) | 人 | 0人 | 0人 |
| 出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況 | 人 | 0人 | 0人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。 | 人 | 0人 | 0人 |
| 計 | 人 | 0人 | 0人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | |
|---------|---|---|-----|----|
| 年間 | 人 | 前半期 | 後半期 | 0人 |
| | | | | 0人 |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | — |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | — |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|-------------|---------|--|-----|
| | | 年間 | 前半期 |
| GPA等が下位4分の1 | 人 | 0人 | 0人 |

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|--|-----|
| | | 年間 | 前半期 |
| 修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当) | 人 | 0人 | 0人 |
| GPA等が下位4分の1 | 人 | — | — |
| 出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況 | 人 | 0人 | 0人 |
| 計 | 人 | — | — |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。